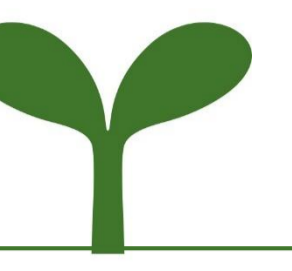


自身の認知的再評価が 他者の認知的再評価に及ぼす影響

【連絡先】
小林亮太 (広島大学 D1)
rkoba1993@gmail.com

○小林亮太・中島健一郎・宮谷真人・中尾敬
(広島大学大学院教育学研究科)



Introduction

◆ 感情制御: ネガティブな感情を緩和したり, ポジティブな感情を高めたりすること (Gross, 1998, 2013, 2015)

- ▶ 再評価: ネガティブ感情やその原因などについてポジティブに再解釈すること
- ▶ 気晴らし: 注意をネガティブ感情やその原因からネガティブでない対象に移行すること

・この失敗から成長できると考え直す
・この出来事もよい経験だったと考える

・読書や運動などの趣味に興じる
・楽しかったことを思い返す

◆ 感情制御伝染

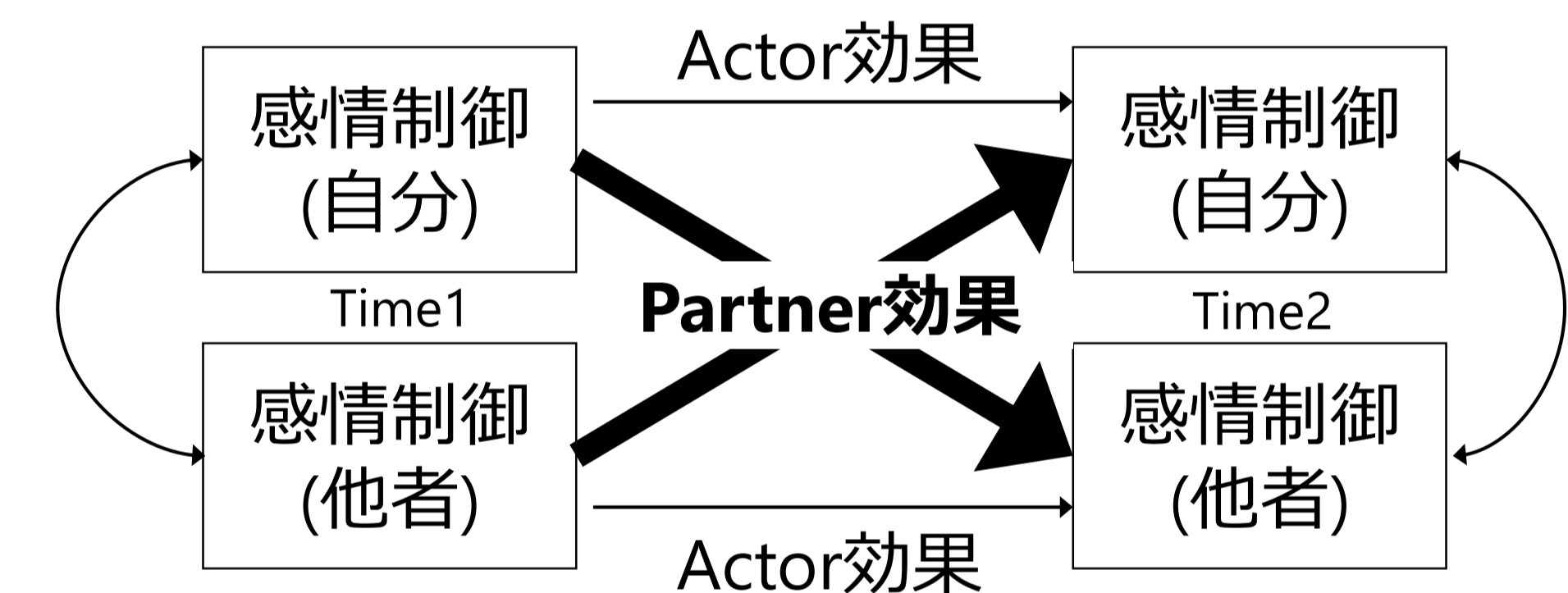
- ▶ 反すう (ネガティブな思考の反復) 方略を好む他者と過ごすことで, 自身の反すう傾向が高まる (Haefel & Hames, 2014)
- ➔ 自身の感情制御が他者の感情制御に影響する
- ➔ Haefel & Hames (2014) では不適応的な方略である反すうのみが取り扱われている

適応的な方略である再評価 (or 気晴らし) においても, 感情制御伝染が認められるか検討を行う (i.e., 自身の再評価 (or 気晴らし) 傾向が他者の再評価 (or 気晴らし) 傾向に影響するか検討する)

Method

- ◆ 参加者 大学生の同性友人ペア48組 (平均20歳, 女性35組)
- ◆ 手続き オンライン縦断調査を実施した。Time1から3か月後にTime2を測定した
 - ▶ 尺度 自己の情動調整行動尺度 (野崎, 2013): 再評価, 気晴らし傾向を測定

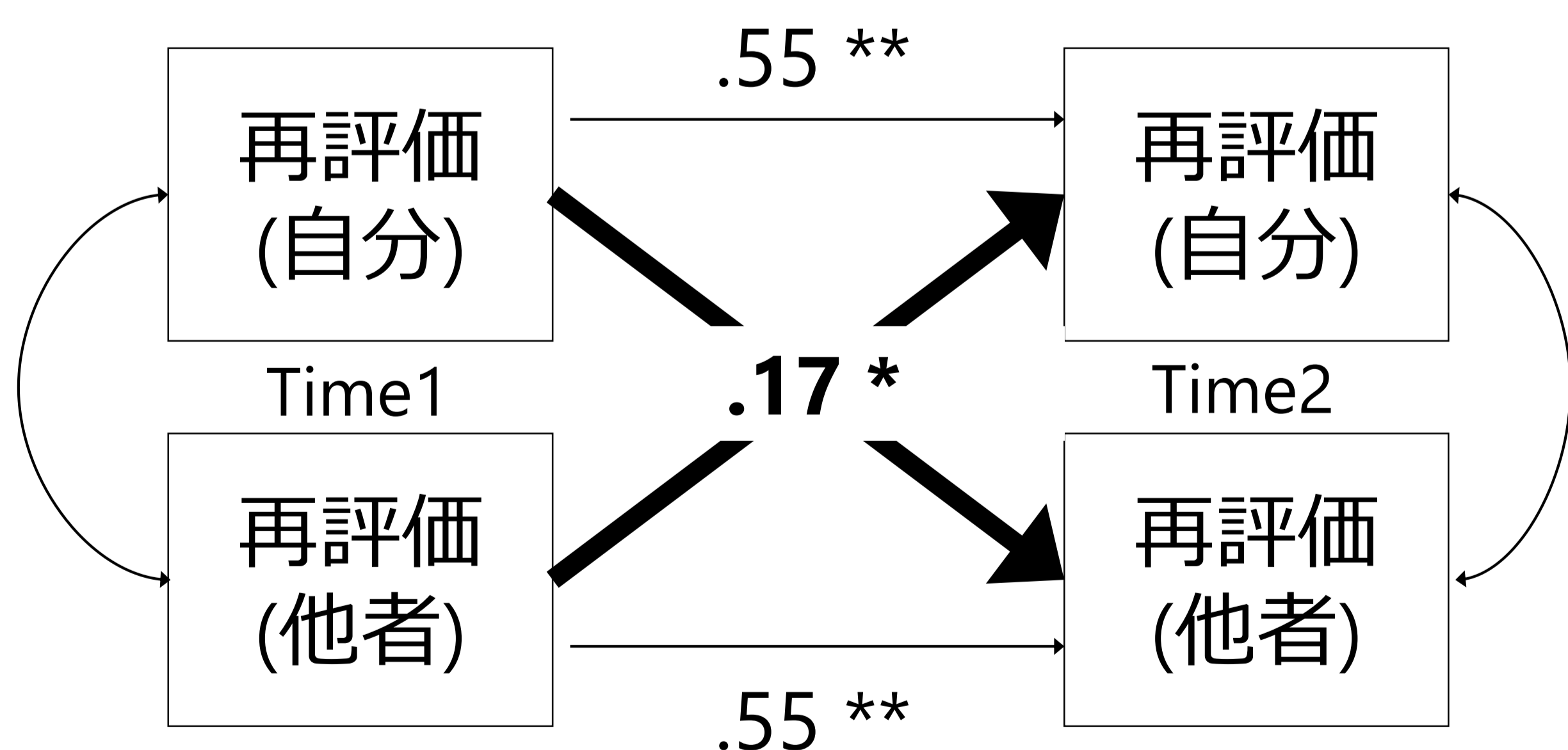
・ネガティブな感情を和らげるために, その出来事をいい経験だと思わせる (再評価)
・ネガティブな感情を和らげるために, 気晴らしになることをする (気晴らし)



- ◆ 解析 Actor-Partner Interdependence Model: **APIM** (Kenny, 1996; 清水, 2014) を行った ※交換可能データとして解析
 - ▶ APIM では, 自身から自身への影響 (Actor効果) と自身から他者への影響 (Partner効果) を区別できる
 - ➔ 自身の再評価 (or 気晴らし) が他者に影響するかどうかを Partner効果の観点から検討を試みた

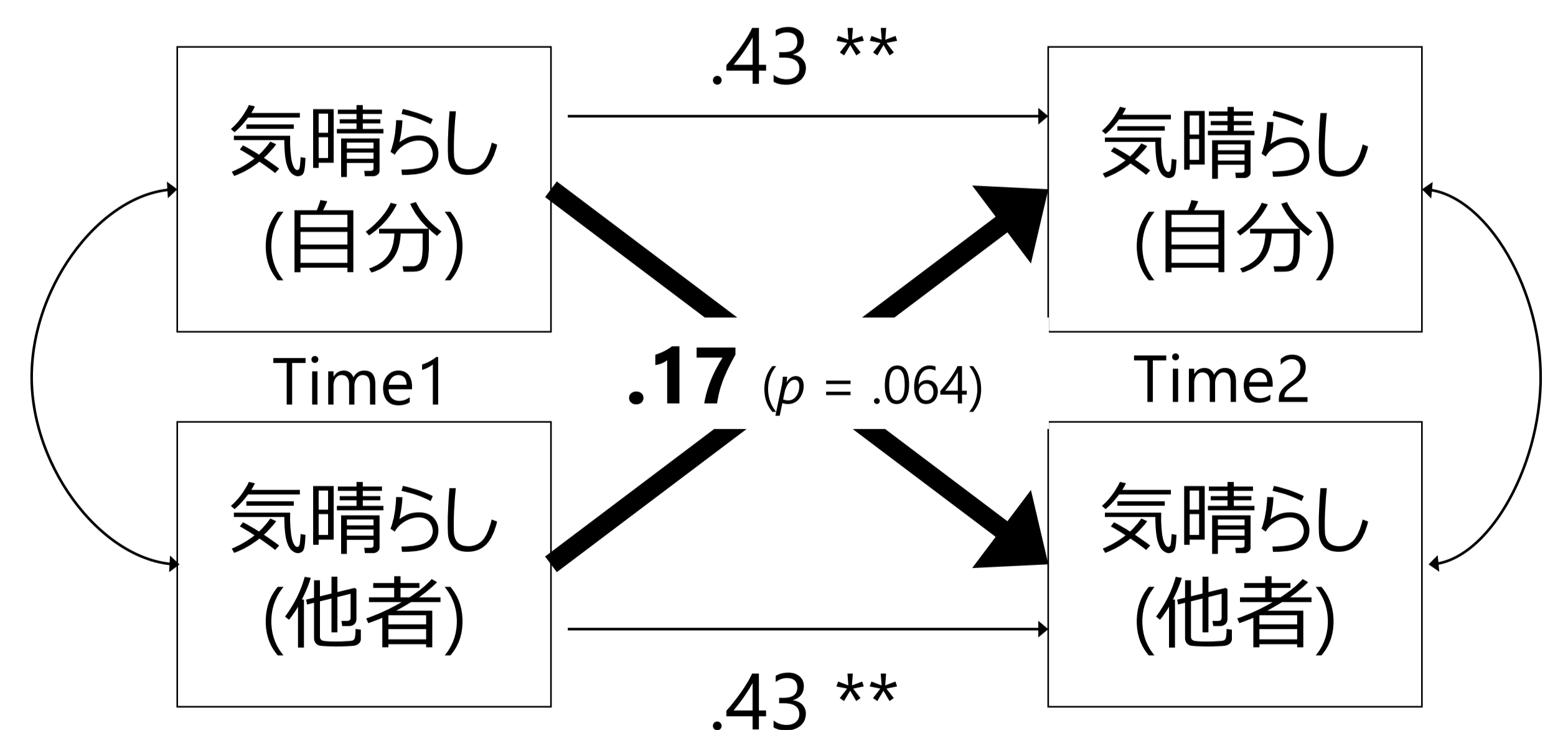
Results & Discussion

◆ APIM: 再評価



CFI = 1.000, RMSEA = .000, ** p < .01, * p < .05

◆ APIM: 気晴らし



CFI = 1.000, RMSEA = .000, ** p < .01

Partner効果が有意であり, 再評価, 気晴らしにおいても感情制御伝染が認められた (i.e., 自身の再評価 (or 気晴らし) が他者の再評価 (or 気晴らし) に影響を及ぼしていた)

- ▶ 参加者ペアは日々の生活の中で関わりがあるだけで, 実験的な操作などは行っていない
 - ➔ **他者との相互作用の中で, 感情制御が自然に変化していくことが明らかになった**
 - ➔ 青年期以降の感情制御の変化 (発達) については不明な点が多いが, 感情制御伝染の観点から検討できる...?

